

# 市民のひろば

身近な話題などお知らせください！  
情報をお待ちしています



竹の棒の先に付けたねじねじパンを炭火で焼く参加者

## 子どもも親もみんなが主役の遊園地

柳川ファミリープレーパーク 2011

柳城児童館の中庭と柳城児童公園で11月26日、柳川ファミリープレーパーク2011「森の遊園地」が開かれました。自分の責任で自由に遊ぶ参加型の遊び場づくりとして初めて実施。市内外から子どもや保護者など356人が参加し、バルーンアートや大きなしゃぼん玉作りなどで遊んだほか、アカペラの合唱や和太鼓、絵本の読み聞かせのステージイベントを楽しみました。アウトドアクッキングでは、ねじねじパンを参加者みんなで焼いて、アツアツのパンをおいしそうにほおばっていました。

## 偉大な国文学者を顕彰

第24回国文学者藤村作先生を偲ぶ会

市出身の国文学者藤村作先生を偲ぶ会が、命日の12月1日に菩提寺の本光寺で行われました。藤村は、1875（明治8）年に生まれ、東京大学の教授になり、江戸時代の井原西鶴や近松門左衛門などの作品を初めて学問の対象にしました。偲ぶ会では、藤村作先生顕彰会の会員が本光寺に集まって、読経をあげて冥福を祈願。その後、新外町の武家住宅、十時邸そばにある顕彰碑に献花をして偉大な国文学者をしのびました。



藤村作の菩提寺、本光寺で読経をあげた

## きれいな環境は自分たちの手で

中山散田で水路の除草作業

中山散田で11月27日、地域の人たちが除草作業を行いました。同地区は地区内の農業用幹線水路を中心に、年間10回の清掃活動を行っています。この日は塩塚川からの導水路を除草。草刈り機が届かない場所は、水路に足場を組んだり、胴付長靴をはき水路に入ったりして草を刈りました。区長の川口修一さんは「草が茂っていると、ゴミが投げ込まれやすくなります」と環境を整えておくことの大切さを話しました。



水路岸の草を刈る中山散田の人たち

## 郷土出身の偉人の足跡を知ろう

柳川古文書館で企画展「子爵曾我祐準」開催中

柳川出身で明治時代に活躍した曾我祐準の遺品を集めた企画展「子爵 曾我祐準」が、2月5日まで柳川古文書館（隅町）で行われています。12月3日には同館の学芸員が展示品の説明や逸話などを紹介する展示解説会を実施。訪れた見学者は学芸員の説明に熱心に耳を傾けていました。説明会は12月24日、1月15日、29日にも行うほか、1月7日の午後1時30分から、あめんぼセンターで、曾我祐準をテーマにした講演会が開催されます。問い合わせは、同館（☎72・1037）まで。



▲熱心に学芸員の説明に耳を傾ける見学者

## 土俵の外でも大関は大忙し

九州場所を終えた大関琴奨菊関が里帰り

大相撲九州場所で11勝をあげた大関琴奨菊関が、11月28日から柳川に帰省しました。28日、市役所柳川庁舎を訪れた琴奨菊関は、新大関として迎えた九州場所の成績を金子市長に報告しました。その後、母校東宮永小学校を訪問し、児童たちと腕相撲をするなどして交流。児童たちから「今度は横綱を目指してください」と激励を受けました。30日は、柳川警察署の一日署長として年末年始の特別警戒出発式に出席した琴奨菊関。パトロールに出発するパトカーなどを見送りました。



▲東宮永小学校の児童から歓迎を受ける琴奨菊関

## 俳句

今月の入選作品課題「時雨二石路の花」

時雨過ぎ静かに郷の暮れいけり

古賀 強（吉原）

初時雨干したる柿に走りより

田中清美

生け垣に色を添へたる石路の花

廣松ヨシエ

時雨にはほど遠きかな今日の雨

野口美恵子

幸せの色して庭に石路の花

原田アツ子

あるじなき屋敷に増える石路の花

梅崎三和子

観音堂石路の花活け華やけり

古賀ヨネ子

旅の宿心なごます石路の花

大城靖子

この世をば祈り祈りて石路の花

松崎やす子

石路の花午後の狭庭の光りをり

森永孝英

菜園に時にやさしい時雨かな

萩尾法子

時雨るるや一〇〇円ショップ傘売場

古賀俊郎

時雨あと運動場にほこりなし

武藤博文

この風のおい北から時雨けり

古賀幸子

夕闇をまだ拒みたる石路の花

浦 哲之

片隅に冬の訪れ石路の花

古賀幸子

夕時雨通り過ぎたるシャッター街

三池多美

法衣着て訪ふ人のあり夕時雨

濱田雄二

一病と付かず離れず石路の花

谷 祥子

【句評】虚子の昭和19年の作に「初時雨しかと心にとめにけり」

戸塚貴美代

がある。若いころから心に残っている句です。一読、力み

（今古賀）

直な心で季節に立ち向かっていることが大切となります。

（今古賀）

### ◆選者の句

剪るといふ妻にやつれし石路の花

鬼郎

俳句を募集しています。選句者は大曲鬼郎さん。1月の課題

は「餅」「山茶花」です。入選作品は1月15日号に掲載します。

●応募方法 俳句と明記し、自作、未発表の作品（※1人3句

以内）に、住所、氏名、電話番号を書いて、ハガキかファクス

または直接、柳川庁舎企画課広報係（☎77・8425、FAX

74・5520）へ、12月28日（※必着）までにお送りください。